森の名手・名人シリーズ31

名人 平野 守（69）
岐阜県郡上市

聞き手 遠藤 翔太
岐阜県立郡上高等学校三年
平成21年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、42名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

チェーンソーカービング チェーンソーアートが大好き。

1. チェーンソーアートと出会い

チェーンソーアートを始めたきっかけは、確かテレビで見て「ああ、すごいなあ～。チェーンソーでも動物の置物作ったり凄いことできるんや。」と思って、んで俺元々建築や合掌造りの仕事でチェーンソー使っとってある程度は慣れとったもんで、ちょっとやってみたいなって思ったんや。そしたら奈良県の吉野町に「吉野チェーンソーアートクラブ」ちゅうのがちょうどその頃できて、チェーンソーアート教室始めるっちゅう情報を得たもんで、「これはどうでも行かなかん!!」思って２００６年の春の第一回のスクールから行って習い始めたの。

学んできたことは、まずはチェーンソーとはどうゆう物かとか、どんな仕組みでチェーンが回って、どうして木が切れていくかとかそうゆうこと。あとは、目立て（刃の手入れ）とかチェーンソーの扱い方を習って、作品作りを順番に習ってたんや。

今まで作ってきたもんはたくさんあるけど、初めて作った作品はフクロウ。大きさは大体直径30㎝の高さが１００㎝。まだ始めたばかりの頃はフクロウ作ったり熊の顔作ったりした。あとはイーグル、魚、犬、兎、リス、馬、亀とか。おんなじ動物でもいろんな種類あるしいろんな形のを作っとるよ。

チェーンソーアートしてきて楽しいとか嬉しいと思ったことは、物作りすることは好きな方やもんで仕事しとる時はいつも楽しいな。あと作品が完成した時が一番嬉しいかな。イメージ通りできた時もそうやし、お客さんに頼まれた作品を悩んで苦労して完成させた時はやっぱり喜びが大きいわ。逆に辛かったことや悲しかったことは自分の思うように作品が作れなんだ時やな。丸太の中身が全然見えんもんで割ってみると虫の穴があったり腐りがあったり、割れがあることが多いんや。そりゃ大変な思いしてやって中が悪くて使えなんだりしたらやっぱり辛いよ。

2. 世界一危ない趣味

チェーンソーアートは「世界一危ない趣味」やって言われとるらしくて、その分自分もいつも気をつけてやっとるつもりなんやけどやっぱり慣れてきて気が緩んでくると怖い怖い。チェーンソーは確かに凄い威力があって人間の手作業の数十倍の仕事量はするけど、反面人に対しては怖いでな。特にキックバックは本当に気をつけなかん。キックバックは木を切ったりしとって下にある石に刃が当たったり、チェーンソーのバーの先端の上部が丸太とかに当たると起こるんやけど、チェーンソーがもの凄い勢いで自分のほうに跳ね返ってきて頭とか体に当たり大きな事故につながるんや。やで、使い方を知ってないとだしかん。やっぱり今危なかったなあって思うことはしょっちゅうあるよ。細かい作業の場合、結構顔や体近づけて作業しんなん時はやっぱり怖いな。

やで、作業中は、自分はもとより周りの人にも十分気を遣って作業しるよう心がけとる。それから安全の為のヘルメット、ゴーグル、サングラス、エアマフか耳栓、マスク、あと防振の手袋、チャップス、安全靴をしっかり着用するようにしとる。チャップスはエプロンみたいな形で腰から足首の前を覆う防具で、これにチェーンソーが触れるとこの中の綿が出てきてチェーンソーに絡まって回転を止めるというもんなんや。

それと、白ろう病っつってチェーンソーを長時間使うと振動で血管が潰れて血のめぐりが悪くなって、指先が白くなったり感覚がなくなったりする病気になることがあるんや。だからしっかり休憩とって体休めたりすることも大事なんや。

3. 作品作り

まず材料やけど、柔らかい木のほうが作りやすいもんで、俺の場合は杉の木が多いんよな。チェーンソーアートそのものはヒノキ、トチノキ、クリ、なんでもやれるんやけど、やり易いには杉の木が一番やり易い。ちなみに杉は郡上で採れる長良杉なんやけど、きれいで質がいいんやな。

作品作りの工程はな、まずどんな作品をどのくらいのサイズで作るかとかを頭で何度もイメージしながらデッサンするんや。ほいで、そのイメージを基にフクロウやったらフクロウの原型ができるよう丸太を切って丸太にチョークで切り落とす部分を書いてく。フクロウとかは何度も作っとるから簡単にイメージできるんやけど、やっぱり初めて作る作品はなかなかイメージ湧かんくてな、デッサンするのも線を書くのも苦労するわ。

そん次はまず丸太に付いとる土や泥をブラシで落とす。その次は原型がだいたいできるように書いた線に沿って丸太をチェーンソーで切ってく。切り落とした次はまたチョークでフクロウの羽、顔、足とかの部分を書いてまたそれに沿って切る。そうすると大体フクロウの形ができてくるやろ。ここまでは大雑把な作業やもんでバーの太いチェーンソーで切るんやけど、この次からの作業が細かくて大変なんや。次は足や顔の細かい部分を削っていくんやけど、これはバーの細い先の尖ったチェーンソーを使う。そうすることで細かい部分をきれいに削ることができる。あとはフクロウの丸みや雰囲気を出すためにチェーンソーを横にして横刃で撫でる様に削るブラッシングで表面を滑らかにする。こんときやっぱり本物のフクロウに見えるように丁寧に注意してやっとる。

基本的にこの3つのチェーンソーを使い分けて使っている。

①大雑把な丸太を切ったり、原型を切る作業に使うバーの太いチェーンソー

②形を整えたり周りを削る作業に使うバーの先が細くなっているチェーンソー

③顔などの細かい部分を削るバーが短く先が細くなっているチェーンソー

こんな感じで作業をしている。ちなみにフクロウを作っています。

俺が作品作るときのテクニックっちゅうもんは体に染み付いとるやつやもんで言葉で説明するのは難しいんやな。とにかくチェーンソーに慣れることが一番やと俺は思う。慣れて使いこなせるようになれれば全体的な技術とか自然に身に付くし、やっぱり習っただけでは、聞いただけでは実際に自分の技術にはすることはできんから、何度も何度も作品を作って自分で感覚っちゅうか技を切り開いていくことができるようになるからな。んで、悩んで考えて、苦労して編み出した技は自分が一番よう分かっとるから良い方へレベルを上げれるし、絶対に忘れんし廃らん。だから俺はこれからも作品をどんどん作っていきたいと思っとる。

4. 名人の夢

俺の夢は三つあるんやけどな、一つは郡上のPRの為にも郡上踊りの、人が踊っとるような作品を作り展示したいと思っとる。やっぱり郡上と言ったら踊りやからな。浴衣の柔らかさと風がくるとふわっと揺れるような表現がかなり難しいけど、ただ壁板を貼ったような作品では面白くないから頑張って作ってみたいと思っとる。あと興味あるのは動物とか恐竜、猛獣とかの実物大の作品を手がけていき郡上のどっかに展示したいと考えとる。

二つ目の夢は、チェーンソーアートに興味を持ってやる人が数人増えてきたら市の方にお願いして、動物とかチェーンソーアートで作れる作品を何点も作って展示してチェーンソーアート公園みたいなとこを作りたいと思っとるんや。んで地元の人だけやなくて外部からもそこへ来てもらえるようなものになればいいなと思っとる。

三つ目の夢は、将来郡上で全国の一流のチェーンソーアートの選手を呼んで大会をできればいいなって思っとる。今はまだ郡上でチェーンソーアートの大会とか全然ないで、仲間とイベントとかで一緒に実演をやれるよう、ちょっとみんなレベル上げて、来年の春までには人前でやれるよう腕をあげとかなかんなって話しとるんや。それがだんだん進展してって、その末におっきな大会開ければいいなって思っとる。

あと日本は山ばっかでどっこも木はたくさんあるけど、今山の産業がちょっと低迷しとるもんで杉とかヒノキの単価がなかなか上がらんくて大変らしい。今までずっと木に携わった仕事してきて木のおかげさまで生きてきたでさ、やっぱり木に感謝しとるんや。やで、チェーンソーアートでは根っこの曲がった部分や、チップにするか廃材にするしかない木でも十分作品は作れるから、間伐材とか普通の材もどんどん使ってさ、山の木の産業を元気づけたい。

5. 新しい伝統として

俺、チェーンソーアートの愛好者を増やすために今チェーンソーアート教室やってるよ。生徒は、退職して時間ができた人とか趣味としてやっていきたいっちゅう人が多いんやけど、愛好者が増えてきとるのは嬉しいしありがたいよ。でも、チェーンソーアートを伝統として若い世代に伝えたいと思っとる。まあ安全プロテクターとかチェーンソーは結構お金かかるし、若い人は時間がないもんでなかなかおらんのよな。森林組合勤めとる人とかは興味持ってくれとるんやけど仕事しながらはちょっとキツいし、チェーンソーアートで食ってこうと思っても作品なかなか売れんで取っ付き難いしまぁしゃあないかな。

俺、チェーンソーアートまだまだ未熟なので、これからどんどん技術を磨いてちゃんとしたチェーンソーアート教室を開いて、若い人達にも、興味がある人達にもチェーンソーアートの魅力を伝えていきたい。

名人 平野（ひらの） 守（まもる）さんのプロフィール
●生年月日：昭和15年2月10日生まれ
●職　業：チェーンソーアート名人
岐阜県白川村生まれ。中学校を卒業しすぐ見習いとして福井市で仕事を始め、指物、建具屋、建築と木に携わる仕事に約54年勤めてきた幅広い分野の知識、技術を持つ木のプロフェッショナルである。平成16年からチェーンソーアートをやりだし、チェーンソーアート教室を開いたり、杉の不良木利用や長良杉のPR、安全プロテクター着用奨励など、様々な分野で長良杉と林業のPRに努めている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　臼井征雄】